

稲・大豆作情報 (NO.11 : 最終)

1. 水稲作況情報田の生育概況(9月9日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.0株/m ²	本 年 平 年 平年比			出穂期 8月15日 (平年より1日早い)		気温・日照時間とも平年並みに回復した。「ヒヨクモチ」の出穂期は9/11頃の見込み。 「ヒヨクモチ」の草丈はやや高い。茎数は「さがびより」にやや少ない。葉齢はやや多い。葉色は平年よりやや濃い。
さがびより 小城市芦刈町	6/21 18.5株/m ²	本 年 平 年 平年比			出穂期 8月31日 (平年並み)		
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/29 19.3株/m ²	本 年 平 年 平年比	86.0 — —	437 — —	16.9 — —	37.1 — —	

注1) 各品種 前作: 麦

注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる。

〈参考〉佐賀県農業試験研究センター 米づくり情報(抜粋) (9月3日調査)

	移植日 栽植株数	年 次	出穂期	成熟期	止葉 葉位 L	生育概況
夢しずく	6/18 19.6株/m ²	本 年 平 年 平年比	8/17 8/18 (-1日)	— 9/26 —	13.0 13.7 (-0.7)	【止葉葉位】 「さがびより」では少なく、その他の品種ではやや少ない。 【出穂期】 「夢しずく」: 1日早い 「ヒノヒカリ」: 1日遅い 「さがびより」: 2日遅い 「ヒヨクモチ」: 1日早い
ヒノヒカリ	6/18 22.2株/m ²	本 年 平 年 平年比	8/28 8/27 (+1日)	— 10/10 —	14.1 14.4 (-0.3)	
さがびより	6/21 16.7株/m ²	本 年 平 年 平年比	9/3 9/1 (+2日)	— 10/15 —	14.3 15.2 (-0.9)	
ヒヨクモチ	6/21 22.2株/m ²	本 年 平 年 平年比	9/6 9/7 (-1日)	— 10/31 —	15.5 16.3 (-0.8)	

2. 管内水稻の概況

【夢しずく】

【ヒノヒカリ・さがびより】

【ヒヨクモチ】

糊熟期～黄熟期

乳熟期

出穂始め～出穂揃い

成熟期見込み：9/15～25

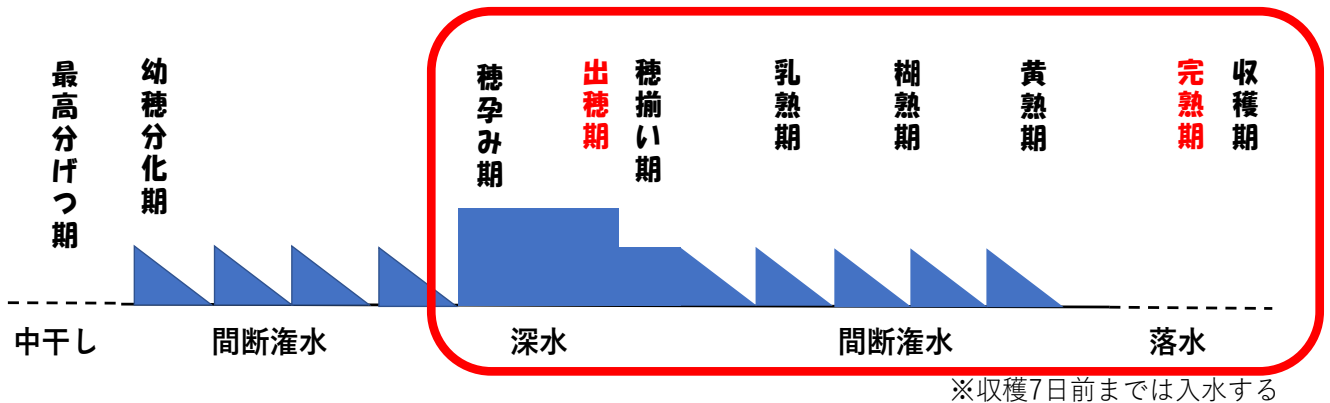
成熟期見込み：10/5～15

成熟期見込み：10/21～

3. 今後の水管理

生育ステージに応じた水管理を行う。

出穂期～開花期までは要水量が多いため、浅水管理とし、その後は間断灌水に移行する。地固めが不十分な圃場は断水期間を長めにとるなど、徐々に地固めと茎の充実を図る。早期落水は厳禁。



※台風時の水管理は【接近時：深水管理 → 通過後：水入れ替え】を実施する。

台風通過後は速やかに溜めていた水を排水し、新鮮な水と入れ換え、根の機能回復や生育回復を促す。

また受光体制等の乱れにより病気・害虫の発生が拡大する恐れがあるため、田回りを励行し、適正防除に努める

ヒヨクモチ

・実肥は下記の診断結果を基に施用する。

ヒヨクモチの穂肥施肥基準（分施タイプ）

	穂肥Ⅰ(kg/10a)	穂肥Ⅱ(kg/10a)	実肥(kg/10a)
施用時期の目安	8月16～17日頃 (幼穂形成始期幼穂長1ミリ頃)	8月25～27日 (穂肥Ⅰの10日後)	穂揃期 (9月10日～13日頃)
LPBB804	40	—	—
BB602	25	10	10

※全量元肥施用田（一発くん）においても穂肥Ⅰ～Ⅱの時期にSPADで40を切る場合には、窒素成分で2kg/10a程度（BB602 10～20 kg/10a）施用する。

○病害虫情報(発生および防除)

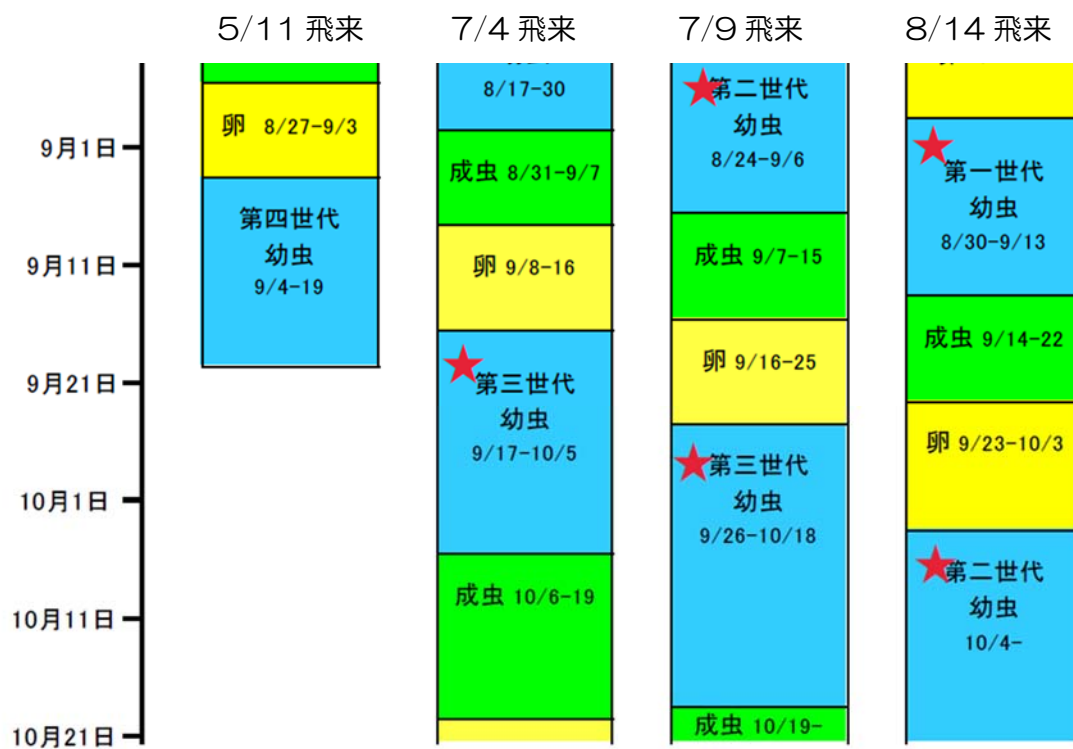
◆ウンカ類

・今年のトビイロウンカは、4飛来（5月11日、7月4日、7月9日、8月11日）

7月9日“やや多い”、8月11日“多い”)が確認されている。

- ・農業技術防除センターが作成された最新発生予測図は下図のとおり(8/18 発信情報変更なし)。
- ・管内のウンカ類は基幹防除が実施されたことにより、さがびより情報田9/9調査において確認されたウンカ類はセジロウンカを中心に0.5~1.2頭/株と少ない状況にある。ただ本年は8/14にもトビイロウンカの飛来が確認されるなど飛来期間に幅があり、幼虫期の期間もそれに従い幅広いため、今後もそれぞれで発生状況を確認し、適期適正防除に努める。
- ・防除の際は、湛水するとともに、株元まで薬剤が十分かかるよう、丁寧に散布する。
- ・なおこの発生予測図は気象をもとに随時更新され、変更される場合があるため、図の下に示すホームページで最新情報を定期的に確認し、防除の参考にする。

防除効果が高い時期は、幼虫ふ化揃い期(各幼虫期の前半(図中★))である。



トビイロウンカの最新発生予測図

農業技術防除センターHP 参照：病害虫情報 <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

防除薬剤

薬 剤	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用回数
エクシード™フロアブル	2000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内
トレボン乳剤	1000~2000倍	60~150L/10a	収穫14日前まで	3回以内
エミリアフロアブル	1000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	2回以内
スタークル液剤10	1000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内

◆斑点米カメムシ類

- ・9月の発生量は、“平年並”予測となっている（農業技術防除センターHP 病害虫発生予察予報第6号）。
- ・山麓部や河川敷付近など、例年発生が多い圃場では田廻りを励行し、防除を徹底する。
- ・山麓部や平坦でも圃場周辺の雑草の発生が多い場合は、乳熟期の防除を徹底する。
- ・防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

斑点米カメムシ類の防除時期
◎多発生：「穂揃い期」及び「乳熟期」の2回防除
◎少発生：「乳熟期（出穂の約15日後）」1回防除

◆コブノメイガ

- ・中晩生種の圃場で食害被害が散見される。
- ・防除適期は幼虫心化揃い期（発蛾最盛期の7日後）。9/17頃

◆いもち病

- ・9月の穂いもち発生量は、やや多い予測となっており（農業技術防除センターHP 病害虫発生予察予報第6号）、山麓部や平坦で発生しやすい圃場で発生を確認している。
- ・進展型病斑がみられる圃場では早急に薬剤防除を行う。
- ・上位3葉に葉いもち病斑が確認される場合は、早急に防除を行い、穂いもちに進展させないよう穂孕み期～穂揃い期に再度薬剤防除を実施した方が良い。

出穂期ごろの防除がポイント

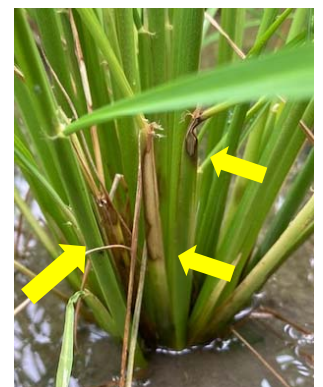
- ・また移植時苗いもちが確認されたところでは、現在病斑が確認できなくとも、いもち病菌は稲体上に残っているため、田廻りを励行し、初発発見→適期防除を心がける。



▲いもち病（農業技術防除センターより）

◆紋枯病

- ・発生地区数が徐々に増えてきている。生育が良好で、過繁茂状態の圃場では、一気に進展する恐れがあるため、田廻りを励行し、病斑が確認された場合は、病斑が上位葉の葉鞘に垂直進展する前にバリダシン液剤(収穫14日前まで)等で防除を行う。



3. 大豆管理

○排水対策

今後も局地的な豪雨に備えるため、排水溝の整備を行い、排水口への確実な誘導を図る。リターンデッチャや畔塗り機などで施工した額縁明渠についても適正管理を行う。

○雑草対策

- ・イネ科雑草が多いところでは、ポルトフロアブル等で防除する。
- ・アサガオ類やホオズキは、繁殖力が強く、放置すると次年度以降の発生量が多くなるため、圃場内はもとよりまくら地や畦で発生している場合は、必ず抜き取り圃場外へ持ち出すか、畝間散布による薬剤防除を徹底する。

○病害虫対策

ハスモンヨトウ

- ・9月の発生量は、平年並み予測（農業技術防除センターHP 病害虫発生予察予報第6号）となっているが、誘引トラップでの捕獲数が増加してきている地域が拡大している。新たな白変葉を発見した場合は、早急に防除を実施する。台風後は倒伏により防除効果が十分でなくなる可能性が高いため、倒伏する前の防除を心がける。

マメハンミョウ

一部の圃場で、局地的に発生し加害がみられる。早期発見に努め、スポット的に薬剤散布する（スミチオン乳剤等）。

カメムシ類

- ・9月の発生量は、“やや多い”予測となっている（農業技術防除センターHP 病害虫発生予察予報第6号）。
- 生育状況に幅があるため、発生のタイミングは圃場により異なると思われるが、今後の発生に注意し、莢伸長初期～子実肥大中期に防除を行う。

令和3年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業改良普及センター

